

九州大学
大型計算機センターニュース
No. 425

1990. 9. 20

福岡市東区箱崎6丁目10番1号
九州大学大型計算機センター
広報教育室(TEL092-641-1101)
内線 2505

目 次	
1. MSPからUTSへのログイン機能 (TELNETコマンド) の 暫定公開について	1
2. GKS 85 入門講習会の開催について	7
3. データセットのアクセス管理の強化について	8

1. MSPからUTSへのログイン機能 (TELNETコマンド) の暫定公開について

標記機能を9月10日(月)から暫定公開しています。これはMSPからTCP/IPプロトコルを利用してUNIXホストにリモートログインできるものです。起動コマンド名はTELNETです。暫定運用期間中はリモートログインできるホストはUTS (kyu-c)のみです。以下に述べるような利用上の制限や利用に際して工夫、注意を要する点がありますのでニュースを一読の上利用してください。F6680系の富士通の専用端末、TTY端末、N-1経由の端末で利用でき、漢字の入出力、図形表示も行うことが可能です。

1. 利用に際して前もって注意する事項

- ・富士通の専用端末はアスキー文字が表示できる日本語端末を使用してください。パソコン端末などのTTY端末では漢字はJOIS,あるいは新JISをサポートしたエミュレータを利用してください。新JISの場合は“JTJYJIS83”というコマンドをMSPのREADYで入力しておく必要があります。N-1経由の端末はローカルホストに接続して漢字の入出力ができる状態にしておきます。
- ・MSPでは入力文字はローカルエコーしていますが更にUTSにログインすればUTSからのエコーバックもあります。UTSからのエコーバック機能を抑止するには“stty -echo”をUTSにログイン後、入力します。なお、パスワード等の入力については十分ご注意ください。
- ・UTSでは漢字はEUCコードのみをサポートしますので、漢字の入出力をする場合は必ず“jstty -u -t -J”を入力しておいてください。漢字の入力は端末の漢字変換機構(パソコン端末はATOKなど)を利用してください。

- ・ U T S のフルスクリーンアプリケーションは利用できません。 `vi (jvi)`, `emacs`, `tenplus`, `browse`, `less`, `vnews`, `talk`, `phone`などは利用できません。 エディタはラインエディタ (`jex`)、 J U N E T のニュースを読むには `readnews` を、 会話には `write` コマンドをお使いください。
- ・ パソコンなどの T T Y 端末ではそれぞれエミュレートしている端末タイプを U T S ログイン後選択してください (例えば `vt100` など)。 またテクトロ4014等をエミュレートしていれば図形表示が可能です。 ページャは `pg` を指定してください (`setenv PAGER pg`)。
- ・ F 6 6 8 3 などの専用端末 (N-1 経由でない) で利用する場合は、 テクトロ4014などの図形作画シーケンスは表示できません。 単なる U T S の T T Y 端末として取り扱われます。 端末タイプは "`tty`" を指定してください。 ページャは `cat` または `pg` を指定してください。
- ・ F 6 6 8 3 などの図形表示可能な F N V T 端末ではテクトロ4014などの図形作画シーケンスは端末に表示が可能ですので、 S, Mathematica, gnuplotなどで図形表示を行うことができます。 端末タイプは "`tty`" を指定してください。 ページャは `cat` または `pg` を指定してください。
- ・ グラフィックアプリケーション起動中に図形表示を行う場合、 グラフィック端末タイプはテクトロ4014などを選択してください。 なお、 アプリケーションによりグラフィック端末タイプの指定方法は異なるのでそれぞれのオンラインマニュアル等を参照してください。
- ・ T E L N E T コマンドモードに移行するためには F 6 6 8 3 などの端末の場合は P A 1 キーを押下してください。 T T Y 端末の場合はブレークキーを押下してください (T S S P F D エミュレータ (1) を用いている場合は S T O P キーを押す)。 N-1 経由の端末は一回のブレーク信号で N-1 の仮想端末モードになりますので、 T E L N E T コマンドモードにするためには更にもう一度ブレーク信号を送出する必要があります。 なお、 F N V T を利用して当センターを利用している場合は1回のブレーク信号送出处で T E L N E T コマンドモードに移行します。
- ・ 端末には制御コードを含めてできるだけ透過的にコードを出力していますが、 端末からの入力はかなり制限を受けます。 制御文字は一般には U T S には届きません。 このためどうしてもエスケープや `^c`, `^d` などを U T S に送りたいときには、 いったん T E L N E T コマンドモードに移行して制御文字を送信する必要があります。 制御文字の送信については 2. T E L N E T コマンドモードを参照してください。
- ・ 端末からの入力に対してホストからの応答があって、 端末からの次の入力を受け付けるように T E L N E T コマンドを実装しています。 応答のないコマンド (`mailx`, `write`, `jex` など) の場合に対処するためにタイムアウト時間をユーザが設定可能にしています。 初期値は 20 秒になっています。 上記のコマンドを利用する場合は T E L N E T モードでタイムアウト時間を短くします (例えば 0.5 秒程度)。 その他のコマンドを利用する場合は初期値程度に大きくしておく方が使い勝手はよいでしょう。

2. T E L N E T コマンドモード

オペランドなしで T E L N E T コマンドを起動するか T E L N E T コマンドモード移行キーを押せば、 T E L N E T コマンドモードに移行します。 この状態で "?" または "help" すればヘルプメニューが表示されます。 以下にヘルプメニューを示します。 %以降は説明用の注釈です。

TELNET>?	%TELNETコマンドモードで?を入力
open host_name	%リモートホストにコネクションを張る。
close	%コネクションを切断
quit	%TELNETコマンド終了
timeout N(*100msec)..initial value(N=200)	%タイムアウト時間設定 (timeout 10で1秒に設定)
/tss_command	%MSPのコマンド実行
help or ? : show this menu	%ヘルプメニュー表示
%string : send characters	%文字列送信
esc : send escape_code	%エスケープ文字送信
ca : send control-a	% ^ A (コントロール - A) を送信
cb : send control-b	
:	
:	
cz : send control-z	

例えば間違えて e m a c s を起動した場合は TELNET コマンドモードにして c x を入力して、もう一度 TELNET コマンドモードにして c c を入力すれば ^ x ^ c を送信したことになり、e m a c s から抜けてシェルモードに戻ることができます。

3. パソコン端末との間のファイル転送について

バイナリ転送はできません。また k e r m i t などの手順付きの転送も利用できません。簡易型ファイル転送のみをサポートしています。すなわち U T S へのファイルのアップロードは U T S 側でラインエディタ j e x を起動してインプットモードにしておいてからパソコン側からファイルを転送します。なお、端末エミュレータは先行入力不可状態で利用する方が使いやすくなります。また、インプットモードにしてからタイムアウト時間は 0.5 秒程度に短くします。エディタ終了後はタイムアウト時間を初期値に戻します。なお、パソコンから転送するテキストは特に m a i l x コマンドなどの入力になるものはあらかじめ 78 文字 (漢字で 39 文字) 程度で改行コードを入れておく必要があります。1 行最大 255 文字まで入力できます。

U T S への転送例 (端末エミュレータは参考文献 (1) を利用 ; %以降は注釈)

%jex mail.txt	%行エディタ j e x を起動
"mail.txt" [New file]	%stopキーを押してTELNETコマンドモードにする
No lines in the buffer	
TELNET>timeout 5	%タイムアウト時間を 0.5 秒に設定
:set nu	%行番号を表示する
:a	%アペンドモードにする
1 accde	%f・1キーを押してファイル転送開始
2 漢字のテスト	
ファイル転送を終了しました。	
3.	%. (ドット) を入力してアペンドモード終了
:wq	%wqを入力してファイルに保存して終了
"mail.txt" [New file] 3 lines, 40bytes	
%	

なお、MSPとUTSとの間のテキストファイル転送は4., 5. に説明するログデータセットと自動走行スクリプトデータセットを利用して行うことが可能です。また、スプール間転送(2)か、FCAT(3)を利用してファイル転送(テキスト, バイナリ両方可)を行うこともできます。

4. 画面入出力の履歴 (ログ)

TELNET コマンドは端末画面のログが採取できます。TELNET コマンドを投入する時に次のようなオペランドをつけます。

```
TELNET kyu-cc > [ログデータセット名] ……上書きの場合
TELNET kyu-cc >> [ログデータセット名] ……追加書きの場合
```

ログデータセット名を省略するとTELNET.TEXT というMSPのデータセットに採取されます。なお、“>”、“>>”はログを採取する場合は省略できません。データセットは既存でも新規作成のデータセットでもかまいません。しかし、新規データセットではレコード長などの指定ができないのでできるだけ予め作成しておいてください。TELNET コマンドを終了するまでログが採取されます。

5. 自動走行スクリプト

TELNET コマンドを起動して入力したいコマンド列をあらかじめMSPのデータセットに作成しておき、TELNET コマンド起動時にデータセットを指定すれば自動的に入力をシミュレートします。定型作業などに活用できます。

```
TELNET kyu-cc <[自動走行スクリプトデータセット名]
```

データセット名を省略するとTELNETRC.TEXTから読み込みます。このデータセットはNONUM属性(行番号なし)で作成しておく必要があります。なお、ログデータセットと自動走行スクリプトデータセットは同時に指定可能です。

```
TELNET kyu-cc <[自動走行スクリプトデータセット名] >[ログデータセット名]
```

TELNETRC.TEXTの記述例

```
a79999a
xxxxx
vt100
stty -echo
jstty -u -t -J
setenv PAGER pg
setenv EDITOR jex
setenv VISUAL jex
who
```

注) 空行があると空リターンが
入力されたときみなされる

6. 簡単な使用例 (端末エミュレータは参考文献(1)を利用; %以降は注釈)

```
READY
JTty JIS83                %端末の漢字コードを新JISコードにする
CHANGED TTY KANJI CLASS(JIS83) %エミュレータ側も変更する必要がある
telnet kyu-cc             %UTSにログインする
KYUSHU Univ. Telnet System (version 1.0 08/08/90)
  escape key              is PA1(break).
  type "?" or "help"     .for showing help-menu.
  type "stty -echo"      .after logging in remote host.
  type "jstty -u -t -J" .when using KANJI(at kyu-cc).
trying .....
```

UTS TISP telnetd kyu-cc

login: a79999a %ログイン名を入力
a79999a
Password:xxxxxx %パスワード入力

**** statistics and charges (a79999a) ****
** total size of reserved files = 43150 KB **
** total charge = 210627 yen **

There is news.

Terminal Type: vt100 %端末タイプ入力
vt100
% stty -echo %UTSからのエコーを抑止する
stty -echo
% jstty -u -t -J %UTSの漢字コードを設定する
% setenv PAGER pg %環境変数PAGERを設定
% setenv EDITOR jex %環境変数EDITORを設定
% setenv VISUAL jex %環境変数VISUALを設定
% who -Tu %WHOコマンド起動
a79998a + ttyp000 Aug 24 14:16 1:06 10505
b79995a - ttyp001 Aug 24 18:04 1:45 16860
c79935a + ttyp002 Aug 24 20:36 . 20236
% readnews kyushu-u.cc -rx %JUNETニュースを読む

Newsgroup kyushu-u.cc

Article 311 of 311, Tue 14:44.
Subject: centernews 423-2(renrakusyo kousyuukai)
From: a70052a@kyu-cc.cc.kyushu-u.ac.jp (Publicity @ Computer Center, Kyushu University,
Fukuoka, Japan)
(25 lines) More? [ynqly
九州大学大型計算機センターニュース No. 423-2

連絡所講習会の開催について

~~~~~  
省略  
~~~~~  
:q
q

Article 310 of 311, Tue 14:42.
Subject: centernews 423-1(network no ichijiteishi)
From: a70052a@kyu-cc.cc.kyushu-u.ac.jp (Publicity @ Computer Center, Kyushu University.

```

Fukuoka, Japan)
(18 lines) More? [ynq] q
% mailx a79999a %メールを出すためにmailxコマンドを起動
Subject: testmail
testmail
TELNET>timeout 5 %TELNETコマンドモードにして
TELNET> タイムアウト時間を短くする
test mail
aaaaaaaa
bbbbbbbb %パソコン側でA T O Kを起動して漢字を入力
漢字のテスト
aaaaaaaa %~.を入力してメールを送信する
~.
EOT
%
TELNET>timeout 200 %タイムアウト時間を初期値に戻す
% math %mathematicaを起動
Input Your X-server host-name: _ %Xサーバを利用しないで空リターン入力
Input <<Tek.m ,when your terminal is Tektro4014/4010 Terminal.

```

```

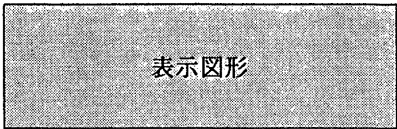
Mathematica (sun4) 1.2 (November 6, 1989) [With pre-loaded data]
by S. Wolfram, D. Grayson, R. Maeder, H. Cejtin,
S. Omohundro, D. Ballman and J. Keiper
with I. Rivin and D. Withoff
Copyright 1988,1989 Wolfram Research Inc.
-- Terminal graphics initialized --

```

```

In[1]:= <<Tek.m %tekonix4014モードにする
<<Tek.m
-- Tektronix graphics initialized --
In[2]:= Plot[Sin[x ^3], {x,-2,2}]
Plot[Sin[x ^3], {x,-2,2}]

```



```

Out[2]= -Graphics-
%空リターンを入力すると図形が表示される
%mathematicaを終了する
In[3]:= Quit[]
Quit[]
% exit %U T Sをログアウトする
% logout %正常にログアウトするとM S Pに戻る
READY

```

参考文献

1. 武政他 高速多機能T S S P F D端末エミュレータ, 九州大学大型計算機センター広報 Vo 1. 22, No. 3, 1989, pp. 209-246
2. 二村 U T S - M S P間ファイル転送, 九州大学大型計算機センター広報 Vol. 22, No. 3, 1989, pp. 453-457
3. U T S 端末からM S Pへのフルスクリーン端末としてのログオン機能のテスト運用について 九州大学大型計算機センターニュース No. 405, 1989

TELNETコマンドの第1バージョンであり、使いづらいところがあるかも知れません。TELNETコマンドを使われた方は感想、要望等を下記のメールアドレスにおよせください。できるだけ次のバージョンに反映していきたいと考えています。

A70015A@JPNCCCKU.BITNET BITNET(MSP)
a70015a@kyu-cc.cc.kyushu-u.ac.jp JUNET(UTS)

(ネットワーク室 内線2543)

2. GKS85入門講習会の開催について

標記講習会を下記の要領で開催いたします。受講希望者は、共同利用掛（内線2505）にお申し込みください。

記

- ・日 時 10月9日(火) 10時～12時
- ・受付時間 9時30分～9時50分
- ・対 象 TSS利用経験者
- ・募集人員 30名
- ・内 容 GKS85による図形処理の解説
- ・会 場 大型計算機センター・多目的講習室(3階)
- ・講 師 システム管理掛 橋倉 聡, 藤井 龍磨
- ・テキスト センターで用意
- ・時間割

10:00

12:00

GKS85入門

- ・申し込み期間 10月1日(月)～10月6日(土)
(なお、募集定員に達し次第締め切ります。)

3. データセットのアクセス管理の強化について

前回のセンターニュースでもお知らせしましたように、データの機密保護や破壊防止の強化のため、9月17日(月)から、RACF(Resource Access Control Facility)のレベルアップを行っています。これに伴い、利用者のデータセットに対する機密保護の管理方式が大幅に変更されました。従来他の課題番号で作成されたデータセットを使用していたプログラムは、そのデータセットにアクセス権が設定されていないと、例えば

KDS6001 A70099A, USER, USER NOT ACCESSIBLE TO RESOURCE(E79999A, EX, DATA)

IN VOLUME(PUB130)

のメッセージが出力され動作しなくなる可能性があります。他の利用者と共に研究されている方、また校費と科学研究費課題など複数の課題をお持ちの方で、異なる課題番号間でデータセットを共用している場合は、そのデータセットはアクセス権の設定が必須となりますので十分ご注意ください。

なお、メーカ提供やセンター開発収集のライブラリやアプリケーション、コマンドなど、利用者のプログラムやTSSで利用するシステムデータセットは利用者へのアクセス権設定がされていますので、利用方法は従来通りで変更はありません。以下のニュースは、RACFのエラーで計算機利用に支障のないようにご注意くださいため、前回のニュース(No. 424)を再掲したものです。

1. RACFのアクセス権とは?

センターの計算機資源(以下、リソースという)を利用するためには、そのリソースに対して読み出しや書き込みといったアクセスの権限が必要で、この権限をアクセス権といいます。RACFがアクセス管理するリソースには、利用者ID、直接アクセス記憶装置(DASD)上のデータセット、磁気テープボリューム、DASDボリューム、端末装置などがあります。アクセス権の情報はRACF管理簿(以下、管理簿という)と呼ばれるシステムデータセットに保持され、利用者がデータセットをDASDボリュームに新規作成したり、自分や他人のデータセットをアクセスする際に、管理簿に設定されている情報によってそのアクセス権が審査されます。

利用者データセットは利用者自身でアクセス管理が必要です。以下では、管理方法を説明します。

1. 1 アクセス権のレベル

アクセス権は強いものから順に

- ①ALTER権 : データセットの名前変更、及び消去ができる。②③④の権利を包含する。
- ②UPDATE権 : データセットの読み書き、及び実行ができる。
- ③READ権 : データセットの読み出し、及び実行ができる。
- ④EXECUTE権 : データセットに格納されているプログラムが実行できる。
- ⑤NONE権 : データセットのアクセスを禁止する。

があり、強いアクセス権は弱いアクセス権を包含しています。データセットに上記のアクセス権を設定、解除するにはRACF操作コマンドを使用します。

従来、本センターでは利用者がデータセットを作成すると、自動的にそのデータセットを管理簿へ登録し、作成時点のデータセットは他の利用者へREAD権を設定するという運用を行なってきました。今回、機能変更による機密保護強化のため、センターによる自動登録を廃止し、

- 1) 利用者は自分だけがアクセスするデータセットは管理簿に登録する必要はない。
 (所有するデータセットにはALTER権を持つ)
 管理簿にないデータセットは他の利用者からはアクセスできない。
 (省略値機能で他の利用者からのアクセス権はNONE設定とみなされる)
- 2) 科学研究費課題など複数課題を持つ利用者や、共同研究などで他の利用者へ読み書きさせるデータセットのみ利用者自身が管理簿へ登録する。

の方式に変更されます。

なお、この変更にともない、9月17日以降、既存のデータセットはすべて管理簿から外れた状態となり、設定されていた従来のアクセス権もすべて無効となります。即ち、他の利用者へのアクセス権はNONEとなりますので、ご注意ください。

また、データセットの所有者は、データセットの作成時はALTER権を持ちますが、重要なデータセットは誤動作を防止するため、自分自身にREAD権やEXECUTE権のみを設定することもできます。

省略値機能、及びEXECUTE権は今回のレベルアップにより追加された機能です。

1. 2 特定アクセス権と公衆アクセス権

データセットのアクセス権は、

- ① 特定アクセス権：特定した利用者（自分も含む）に与えるアクセス権。データセットも特定する。
- ② 公衆アクセス権：特定アクセス権を与えられない利用者が、他人が作成したデータセットにアクセスする際に適用されるアクセス権。

を区別して設定できます。

なお、公衆アクセス権の省略値はNONEになっています。

例) データセット ABC.FORT77 を新規作成し、E79999A さんだけに read を許す。
 ADdsd ABC.FORT77 ……管理簿への登録
 PErmit ABC.FORT77 Id(E79999A) Ac(Read) ……特定アクセス権の設定

例) データセット XYZ.FORT77 を新規作成し、すべての利用者に read を許す。
 ADdsd XYZ.FORT.fort77 UAcc(Read) ……管理簿への登録と公衆アクセス権の設定

1. 3 個別名保護と総称名保護

アクセスの対象となるデータセットは、個々のデータセットごとにアクセス権を設定する個別名保護と、データセットをある程度グループ化して一括保護する総称名保護があります。

個別名保護は、データセットを作成したあと、利用者がRACFのコマンドを用いて設定します。

例) データセット ABC.DATA を新規作成し、E79999A さんだけに read を許す。
 ADdsd ABC.DATA ……管理簿へ登録
 PErmit ABC.DATA Id(E79999A) Ac(Read) ……個別名でアクセス権を設定

総称名保護は、予め、RACFのコマンドを用いて、「この形式のデータセットにはこのアクセス権を設定する」と宣言しておくことにより、既存のデータセット、また、宣言以後に新規に作成されたデータセットのすべてに適用されます。センターのDASD上に作成できるデータセットの形式は

登録番号. 単純名1. 単純名2. 単純名n
 ですが、総称名で指定するときは任意の単純名を総称文字（“*”）を用いて表現します。

例) 最初の単純名がabcであるデータセットのすべてを、E79999Aさんと共有する。

ADdsd ABC.*総称名を管理簿へ登録
 PErmit ABC.* Id(E79999A) Ac(Alter)総称名でアクセス権を設定

総称名保護は新機能で、個別名保護に比べてアクセス権のチェックが高速に処理されます。また、リソースをグループ化することによって、RACFの操作が軽減され管理しやすくなりますので、センターとしては個別名保護より総称名保護をお勧めします。

表1に総称名の指定例をあげますが、データセットが個別名保護と総称名保護の両方に適合する場合は、個別名保護が優先します。また、データセット名に総称文字を含まないデータセットも総称名で登録できます。複数の総称名保護に適合する場合は、表2のようにそのデータセットに最も適合する総称名のアクセス権が適用されます。

表1. データセットの総称名の例

総称名の指定	適合するデータセット名の例	適合しないデータセット名の例
X.Y.*	X.Y.a X.Y.a.b X.Y.a.b.c	X X.Y
X.*.Y	X.a.Y X.a.b.c.Y	X.Y X.a.b.Y
X.*.*.Y	X.a.b.Y X.a.b.c.d.Y	X.a.Y X.Y
X.Y.Z	X.Y.Z (総称文字を含まないデータセットもGENERICオペランドを指定して総称名登録ができる)	
X.Y* X.*Y X.**	指定不可 (単純名に総称文字が含まれたり、総称文字を重複してはならない)	

表2. 総称名の適合度の例

データセット名	適合する総称名	適合度 (数字の小さい方が適合度が高い)
X.Y	X.Y X.* *.Y	①総称名がデータセット名と一致 ②最初の単純名と一致するので③より適合度が高い ③
X.Y.Z	X.Y.Z X.Y.* X.*.Z X.*.* X.*	①総称名がデータセット名と一致 ②③に比べて先頭から一致する単純名が多い ③④に比べて先頭から一致する単純名が多い ④1つずつの単純名と置き換え ⑤2つの単純名と置き換え

2. RACF操作コマンド

データセットを管理簿に登録したり、アクセス権を設定するにはRACFのコマンドを使用します。なお、RACFのコマンドはコマンドモード(端末にプロンプトREADYが表示されている状態)でのみ使用可能です。表3に主なコマンドをあげます。

表3. RACF操作コマンド

コマンド名	機能
ADDSD	DASDデータセットを管理簿へ登録する。アクセス権を管理したいデータセットは、最初に必ずこのコマンドで管理簿へ登録する
DELDSD	管理簿からデータセットの登録を取り消す
PERMIT	データセットの特定アクセス権の設定, 変更, 削除を行う
LISTDSD	管理簿に登録したデータセットの情報を表示する

2.1 ADDSD

データセットを管理簿に登録する。管理簿に登録したデータセットのみが他のRACFのコマンドの操作対象となる。

1) 入力形式

コマンド名	オペランド
ADDSD AD	データセット名 [Generic]

	[UAcc (Alter Update Read Execute None)]
--	--

2) オペランドの説明

データセット名：登録したいデータセットを個別名または総称名で指定する。
個別名の場合、既存のデータセット名であること。

Generic：データセット名の中に総称文字を含まないデータセットを総称名で登録する時に指定する。（以下、全コマンドで共通）

UAcc：公衆アクセス権を設定する。省略値はNONE。

3) 使用例

①データセットを管理簿に登録する。

AD ABC.DATA

②下記形式のデータセットを総称名で登録する。既存のデータセットにも適用される。

AD *.FORT77

2.2 DELDSD

ADDSDコマンドで管理簿に登録したデータセットの登録を取り消す。取り消し後のデータセットは省略値保護で保護される。

なお、TSSコマンドのDELETEでデータセットを消去したときは、管理簿登録があると自動的に管理簿からの取り消しも行う。

1) 入力の形式

コマンド名	オペランド
DELDSD	データセット名
DD	[Generic]

2) オペランドの説明

データセット名：登録を取り消したいデータセット名を個別名または総称名で指定する。

3) 使用例

①データセットの管理簿登録を取り消す。

DD ABC.DATA

②総称名の管理簿登録を取り消す。

DD *.FORT77

2.3 PERMIT

管理簿に登録した自分のデータセットを、他人が利用できるように特定アクセス権を設定する。

1) 入力の形式

コマンド名	オペランド
PERMIT	データセット名 [Generic]
PE	[Id (利用者登録番号 USER)]

	<pre>[[Access (Alter Update Read Execute None) Delete]</pre>
--	---

2) オペランドの説明

データセット名：アクセス権を設定するデータセットを個別名または総称名で指定する。

I d : アクセス権を与える利用者の登録番号を指定する。'USER'を指定するとすべての利用者が対象となる。

D e l e t e : I Dオペランドで指定した利用者に対し、設定していたアクセス権を削除する。

A c c e s s : I Dオペランドで指定した利用者に対し、アクセス権を設定する。省略時はR E A D権が設定される。

3) 使用例

- ①利用者 E 7 9 9 9 9 Aさんに、ロードモジュールデータセットのプログラムの実行を許可する。

```
PErmit EX.LOAD Id(E79999A) Ac(Execute)
```

- ②①で与えたE 7 9 9 9 9 Aさんの実行権を取り消し、アクセス不可とする。

```
PErmit EX.LOAD Id(E79999A) Delete
```

- ③A 7 0 0 9 9 Aさんは、自分で作成したロードモジュールデータセットを、自分で誤って破壊しないように保護する。

```
PErmit EX.LOAD Id(A70099A) Ac(Execute)
```

プログラム修正のため元に戻す。

```
PErmit EX.LOAD Id(A70099A) Delete
```

- ④科学研究費課題のA 7 0 0 9 9 Kさんは、すべてのデータセットを校費課題のA 7 0 0 9 9 Aと共有する。予算オーバーなどでA 7 0 0 9 9 Kの課題が無効になってもA 7 0 0 9 9 Aでデータセットの操作が可能。

```
PErmit * Id(A70099A) Ac(Alter)
```

2. 4 L I S T D S D コマンド

管理簿に登録したデータセットの情報を表示する。R E A D権以上のアクセス権も持つデータセットが対象となる。

1) 入力の形式

コマンド名	オペランド
L I S T D S D L D	<pre>[D a t a s e t (データセット名) I d (登録番号) P r e f i x (文字列)] [G e n e r i c N o g e n e r i c] [A L 1]</pre>

2) オペランドの説明

D a t a s e t : 表示したいデータセットを個別名または総称名で指定する。

I d : この登録番号を第一修飾子に持つデータセット情報を表示する。

Prefix : 指定された文字列とデータセットの先頭文字列が一致するデータセットの情報を表示する。

上記オペランドをすべて省略すると、自分のすべてのデータセットが表示される。

Generic | Nogeneric : 表示対象を総称名または個別名登録に限定する。

ALL : 基本情報に加えて、データセットの履歴情報や統計情報、アクセス権の情報を表示する。

3) 使用例

①管理簿に登録したデータセットすべての管理情報を表示する。

```
LD
```

②管理簿に登録したデータセットの詳細情報を表示する。

```
LD D(ABC.DATA) AL
```

3. FORTRANとアクセス権

FORTRANプログラムのデータ入出力で、他登録番号で作成されたデータセットを入力データとしたい場合、以下の操作が必要です。

1) PERMITコマンドで、データセットの所有者から自分の課題に対し、そのデータセットの特定アクセス権としてREADを設定してもらう。

2) データセットの割当てを次のようにする。

バッチジョブの場合

```
// EXEC FORT77
```

```
//FORTCOG.SYSIN DD DSN=A70099A.SOUCE.FORT77,DISP=SHR
```

```
//FORTCOG.SYSGO DD DSN=E79999A.EX.DATA,DISP=SHR,LABEL=(..IN)
```

TSSの場合

```
ATTR LABEL INPUT
```

```
ALLOC F(FT05P001) DA('E79999A.EX.DATA') SHR REUSE USING(LABEL)
```

```
RUN SOUCE.FORT77 FIXED
```

参考文献：計算機マニュアル FACOM OSIV/MSP RACF使用手引書
一般利用者編 V11L10系用

(システム管理掛 内線2518)